



農学部学習相談室（ピアサポート） 学生サポーターの体験談 ～第2号～

今回は、学生サポーターさんたちによる、

「実験レポートの書き方」

をご紹介します。

学生サポーターさんたちが実践した工夫が満載です。

ぜひ参考にしてみてください！



詳しく知りたい方は、ぜひ学習相談室へお越しください！

※今後の開室は、12/1、12/8、12/15、12/22、1/12、1/19です

（本館2階22講義室12:00-13:30）

★計画的にレポートをこなそう★

実験が増えてくると、レポートが溜まりがちで
べ切に追われてしまうこともあるかと思ひます。
時が経つほど実験の詳細も忘れてしまうので、実験
が終わったらなるべく早く手をつけることを心
掛けましょう！**実験中に気付いたことや考えたこと
を実験書にメモしておいたり、予め方法や材料
など書けるところは用意しておいたりすると、実
際**に書くときにとても楽です。また、他の班の結果
を聞くことで、自分の結果に新たな考察ができ
るかもしれません！



（生物生産科学コース M1）

★実験の「なぜ」を解決しておこう★

実験中に実験の内容を出来る限り理解すること
を意識すると実験後でも**スムーズにレポートが
書けるのでお勧めです。「なぜこの作業が必要
なのか」「なぜこの試薬を使うのか」などを意識
すると、実験の目的や意義などが見えてくる
と思ひます。実験には待ち時間がどうしても発生
するので、その間に友達や先生、TAの方に聞
いて、実験の**プロトコル**について分からない点
を無くしておく**と、それを言語化する際や考察
を考える時の大きなヒントとなってくれます。
また、実験結果の写真はなるべく自分で撮って
おくと、班の人からもったりする手間も省けて
効率的です。

（生物生産科学コース M1）

★レポートの経験★

担当の先生によってレポートの書き方の指定はまちまちなので、まずは**その先生
の指示に従う**と良いと思ひます。提出したレポートは返却されることもあり、**修正
すべきポイント**を書いてくださります。**それを参考にすると**良いでしょう。

- ◆ 書式について気を付けること
 - ・ 「、。」と「,、」
 - ・ 斜体で書くべき事柄（単位と定数の区別）
 - ・ グラフの色や表の枠の色

- ◆ オススメ参考書
『理科系の作文技術(木下是雄 著)』



学習相談室(ピア
サポート)では、
メール相談や
オンライン相談も
受け付けて
います！



★計画性をもってレポートに取り組もう★

環境資源科学科の後期は、毎週実験レポートが追加されるなんてこともあると思います。そのため、期限までにレポートが終わるよう**計画性をもって取り組む**ことが重要です。実験書の設問には講義でまだ取り扱っていないような内容のものもあり、理解に時間を要する場合があります。実験終了直後は疲れがあるかもしれませんが、**結果だけでもまとめておき、何を考察で書きたいかその日のうちからイメージしておく**とよいでしょう。また、**結果と考察、感想を混同してはいけません**。



(自然環境資源コース M1)

★考察のヒント★

私がよく悩んだのは、考察の仕方です。特に課題のない自由度の高いレポートで困ったときがあります。**考えるヒントになるのは、先生やTAさんの助言と参考文献**でした。先生やTAさんからの助言で、方法の理解と考える方向性がみえていきやすいです。参考文献は、授業で紹介のあった文献を元に、関連する文献を探しました。特に他の実験に関する報告書(論文よりも短いもの)では、どのように相関関係がとれているのか、どのような仮説を立てることができるのかなど、ヒントになることが多かったです。**また同級生と意見交換をするのもおすすめ**です。仮にお互いに深い考察ができていなくても、異なる切り口を知ること、別のアイデアに繋がることもありました。

(環境資源科学科 3年)

★レポートは早めに作成しよう★

講義や実験のなかでレポート課題が多く課されることがあります。提出締め切りが1週間後から1ヵ月後まで様々ですが、**期限に関わらず、レポートは早めに作成しておく**ほうが効率的です。実験のレポートでは、**考察などに実験中の疑問や気付きを書くことがあります**。私の経験ですが、実験日から1週間経ってしまうと、実験の内容をほぼ忘れてしまいます。メモを取り忘れてしまったら、レポート作成する前に、実験を思い出す作業からはじめなければなりません。そうならない様に、課題を出されたら、早めに作成に取り掛かりましょう。文献を読んで作成するレポートでも、講義の内容等を忘れない内に取り組む様にしましょう。**作成する時間が大幅に短縮されるはず**です。

(食農情報工学 M1)

★レポートを書く上で意識しておくこと★

実験はただでさえ拘束時間が長い上にさらにレポートの提出が課される、ハードな授業だと思えます。時間やルールを自分の中で決めて、効率よくこなしていくことでレポートを早く終わらせることができるだけでなく今後の研究活動を進めていく上で活かすことができます。私の中でレポートを書く上で最も意識していたことは、**実験を始める前に結果の前まで、つまり実験の目的・方法をあらかじめ書いておくこと**です。そのことによって実験後にレポートに関して取り組む内容を減らすことができるだけでなく、**これからどのような実験をするのか、どんな結果を得たいかなどを理解した上で実験に臨むことができます**。さらにこれを意識することによって実験後、**どんな結果や考察が求められているのかを自分自身の中で噛み砕くことができる**と思います。

(食農情報工学 M1)

★考察は飛躍しすぎないように注意★

レポートを書く際に最も頭を使う部分は考察であると思います。**考察を書く際に結果から飛躍しすぎないように注意してください**。例えば身長と年齢との相関関係を調べた際に有意な相関が認められなかったとします。その際「身長と年齢は相関しない」ではなく、「身長と年齢は相関するかわからない」となります。様々な結果から導き出された考察をより良いものにするためには結果から分かることを**正確に述べる**ことが重要です。**結果と考察が矛盾していないか提出前にもう一度確認してみてください**。
(共同獣医学科 6年)

ご感想、ご意見、取り扱ってほしいテーマ等ございましたら、以下のメールアドレスまでお知らせください！



東京農工大学 特別修学支援室 shugakushien@m2.tuat.ac.jp